

令和2年度・3年度 調査研究提言書

研究テーマ：

コミュニティ・スクール化とともに進める
地域と学校の連携・協働の在り方



令和4年2月

瑞浪市社会教育委員会

目 次

I	はじめに	．．．．	1
II	研究テーマ及び設定理由	．．．．	2
III	瑞浪市における地域と学校の連携・協働活動を進める上での現状と課題	．．．．	5
IV	提言		
	(1) 市内先進校の実践より	．．．．	7
	(2) 地域と学校の連携・協働の在り方	．．．．	15
	～各地区の特性・実態に基づいた組織・活動等について～		
	① 瑞浪地区		
	② 土岐地区		
	③ 陶地区		
	④ 稲津地区		
	⑤ 明世学区		
	⑥ 日吉地区		
	⑦ 釜戸・大湫地区		
V	おわりに	．．．．	22

I はじめに

社会教育委員会
代表 有賀 秀雄

世の中は、人生「80年時代」から「100年時代」へと少子高齢化が進んでいます。世の中の変化に伴って様々な問題も生じてきます。AIの進化による労働環境の変化で将来的に就労が困難になる職業が考えられたり、人口の減少によって「消滅するまち」の心配なども生じたりしてきます。また、人と人とのつながりの希薄化も進んでいます。

こうした中でも、人は生きる価値を求め様々な活動を行います。生涯を豊かに生きるためには、健康であること、なすべきこと（学習や趣味など）があること、そして、蓄積してきたことで他人と関わり役立てる喜びを感じる事が重要です。すなわち生涯学習の推進が重要と考えます。

将来を担う子供たちに、多様な問題がある中、「たくましく生きる力」を身に付けてほしいとの思いや、人とつながることの大切さを知り、豊かな心を持って人生を歩んでほしい。そうした願いから、「コミュニティ・スクール」づくりが進められていると考えます。

また、それに関わる大人たちに、人と人、自然と、産業となど多様なつながりがあることを再発見し、子供たちとともに活動し、他人と関わることの喜びを見付けることで、豊かな人生を構築してほしいと思われまます。

私たち社会教育委員は、2年前に「地域・学校協働活動」「地域学校協働本部」の推進・設置について提言をしてきました。

具体的には、地域の多様な人材が集結して、学校と協働して「願う子供像」を明確にしていくことや、活動組織、活動の構築に向けて「熟議」を行うこと、準備委員会を設置することなどです。

しかし、この2年間「コロナ禍」で十分な話し合いの場を設けることが難しい状態でした。その中でも、釜戸小学校と稲津小学校では、市の指定を受けてコミュニティ・スクールの推進に努めてこられました。

私たちは、この2校の実践をもとにどのような計画や組織、配慮事項があるかを考えてみることにしました。このことにより、これから推進される地区への参考に役立ててもらえれば幸いと考えます。

II 研究テーマ及び設定理由

研究テーマ：

「コミュニティ・スクール化とともに進める地域と学校の連携・協働の在り方」

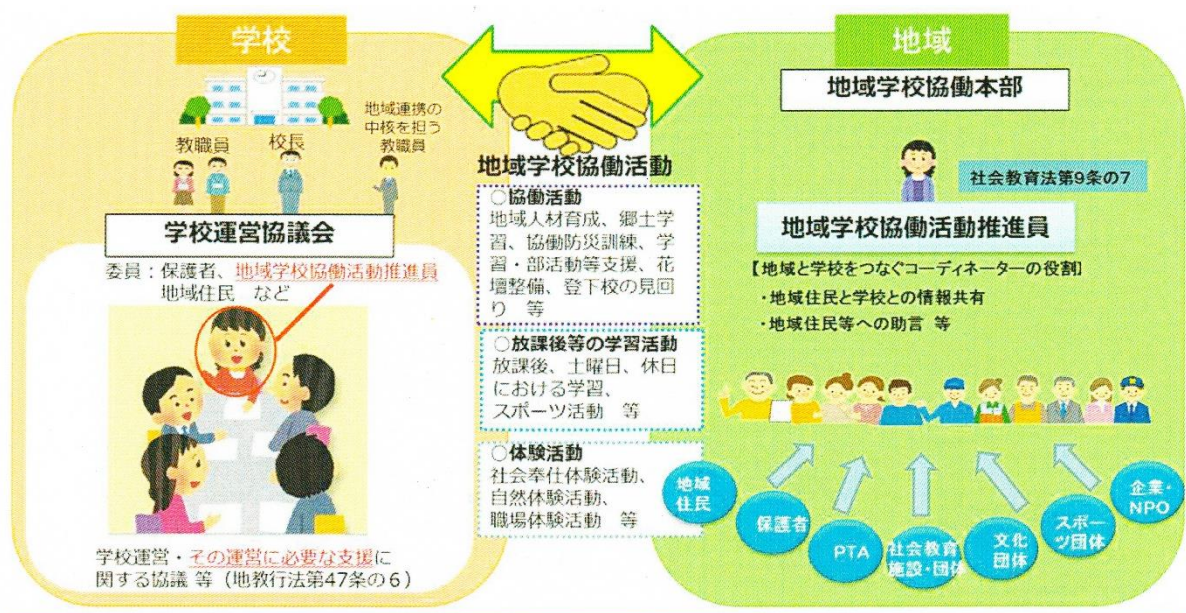
I 研究テーマを設定した理由

(1) 今日の課題と社会教育法の改正から

急激な少子高齢化やグローバル化の進展に伴い、社会環境が急激に変化している。地域においては、地域社会の支え合いの希薄化、教育力の低下、家庭の孤立化などの課題が指摘され、また、学校においては、いじめや不登校、貧困などをはじめ子供を取り巻く問題が複雑化・困難化している。これに対して社会総掛かりで対応することが求められており、地域と学校が連携・協働するための組織的・継続的な仕組みが必要不可欠となってきた。

こうした社会的背景を踏まえ、文部科学省は中央教育審議会答申（平成27年12月）及び「『次世代の学校・地域』創生プラン（平成28年1月）」の策定を経て、平成29年3月に社会教育法を改正した。

この改正により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」及びその活動に対して地域住民と学校との情報共有や助言等を行うコーディネーターとなる「地域学校協働活動推進員」が規定され、地域と学校の連携・協働活動の一層の推進が期待されることとなった。



【コミュニティ・スクールの作り方】文部科学省（令和元年10月）

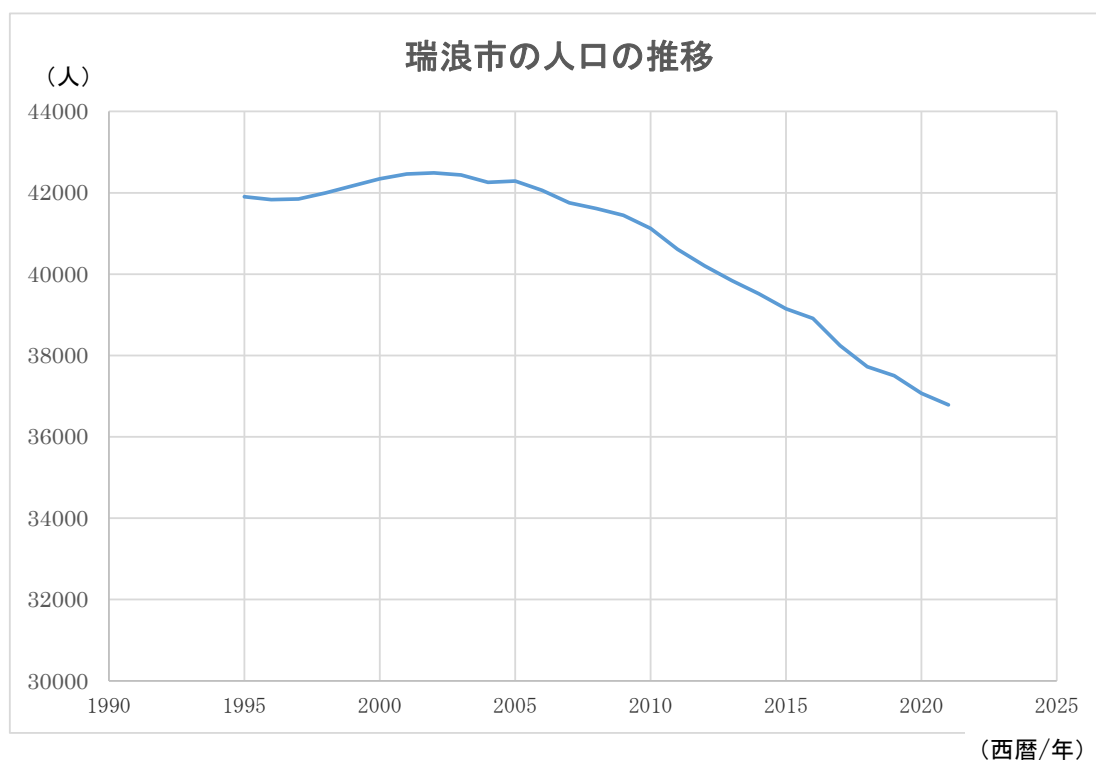
(2) 「社会に開かれた教育課程」の実現

中央教育審議会答申（平成28年12月）の中で、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが示された。実施にあたっては、地域の人的・物的資源を活用することや、社会教育との連携を図ること、学校教育の目標を社会と共有しながら実現させることが重要であるとしている。また、学習指導要領改正により、地域と学校の連携・協働活動の一体的推進が進められることとなった。

(3) 瑞浪市の実態から

瑞浪市の人口は、平成17年（2005年）に約4万2千人とピークを迎えたが、その後徐々に減少し、平成25年（2013年）に4万人を下回り、令和元年（2019年）には約3万7千人にまで減少した。

学校においても、平成28年度の陶中学校と稲津中学校の統合により瑞浪南中学校が、平成31年度の瑞陵中学校、日吉中学校、釜戸中学校の統合による瑞浪北中学校の開校など、統廃合により小学校7校、中学校3校体制となった。さらに、今後市内の複数小学校において複式学級編制となったり、市内中学校において単学級となったりすることが予想されるなど、児童生徒数の減少問題への対応は瑞浪市の喫緊の課題となっている。



これまでも各地区の「まちづくり推進協議会」が中心となり、子供や学校と連携しながら地域を活性化するための事業を行ってきたが、今後の少子高齢化等の課題を受けて一層地域を巻き込んだ活動を展開していくことが望まれる。

令和2年度の準備委員会での検討を経て、令和3年度より稲津小学校と釜戸小学校において正式に学校運営協議会がスタートした。この事例を参考にして令和4年度以降市内の小中学校で学校運営協議会が立ち上がり、令和6年度には市内全学校で学校運営協議会がスタートすることになる。

文部科学省によれば、学校運営協議会を設置した学校を「コミュニティ・スクール」という。「学校運営協議会」が学校に軸足を置くのに対して、「地域学校協働本部」は地域に軸足を置く。そして、「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」が車輪の両輪となり、学校教育目標の具現及び「学校を核とした地域づくり」を推進することが求められている。

しかし、人口減少の課題を抱える瑞浪市では地域に多くの人材を望むことは困難である。各地区のまちづくり推進協議会などの既存の組織を生かしながら、学校運営協議会と地域学校協働本部を一体的に稼働させていくことを「コミュニティ・スクール化」と称して、地域と学校の連携・協働活動の在り方を考えた。地域と学校の連携・協働活動については、これまでに行ってきた背景や地域の実態が異なるため、各地区より選出されている地区代表によって検討した。

(4) ここ数年の社会教育委員会の研究内容から

平成26～29年度の「公民館活動」の調査研究から、瑞浪市内の公民館は、それぞれに独自のテーマを掲げ、その目的に沿ったユニークな講座を開設するなど、学びや活動を通して地域とのつながりを強めていることが分かった。「子供は地域をつなぐかすがい」「子供は地域の宝」であり、子供たちを地域全体で育てることが、ひいては地域の活性化へとつながるということが明らかとなった。

平成30～31年度のテーマを「地域・学校・家庭の連携・協働による地域づくりへの取組」とし、市内の幼児園、小学校、中学校に地域との協働活動に関するアンケート調査を行った。その結果、学校が地域に求める協力・支援は、ICT支援や地域の歴史学習などの学習支援、草刈り・剪定等の環境整備、さらに、登下校の安全の見守り等であるとの回答を多数得た。

これらの調査研究をもとに、令和2～3年度は市内小学校2校において学校運営協議会が正式にスタートすること、さらに小学校4校において準備委員会がスタートすることから、その具体化に向けてどのような連携・協働活動の在り方が望ましいかについて調査研究を進めることとした。

以上の理由により、本研究テーマを設定した。

Ⅲ 瑞浪市における地域と学校の連携・協働活動を進める上での現状と課題

瑞浪市において地域と学校の連携・協働活動を進めるにあたり、瑞浪市の各地区の現状と課題について述べる。

(1) 瑞浪市の現状

瑞浪市は、右図の形をしており、全8地区から構成されている。市内中心部に位置する瑞浪地区、土岐地区、明世地区には地区独自の公民館はなく、3地区を合わせて中央公民館（土岐町）としている。その他の陶地区、稲津地区、日吉地区、釜戸地区、大湫地区の5地区には、地区独自の公民館（市支所を兼ねており、名称はコミュニティセンターとなっている）があり、そこが各地区の活動の中心となっている。各地区には市会計年度任用職員として「集落支援員」が雇用されており、各地区のまちづくりや区長会等の連絡調整業務に従事している。各地区の集落支援員は、各々の公民館に駐在し業務に従事している。しかし、中心部の3地区の集落支援員に関しては、市役所西分庁舎1階「まちづくり事務所」に駐在して業務を遂行している。



【瑞浪市地区地図(市 HP より)】

また、大湫地区には昭和36年（1961年）までは大湫中学校が、平成17年（2005年）までは大湫小学校が存在していたが、人口減少により近くの釜戸小・中学校と統合され、閉校となった。さらに、先に述べた通り、平成31年（2019年）にはその釜戸中学校も瑞陵中学校、日吉中学校と統合され、瑞浪北中学校となり釜戸中学校は閉校となった。

（２）瑞浪市の２つの課題

１つ目の課題は、地区独自の公民館を持たない地区が３つあることである。今後地域学校協働活動を推進・充実させていくためには、市内周辺地区のように地区独自の公民館があると地区の活動拠点となり進めやすい。市内中心部にある瑞浪地区、土岐地区、明世地区での地域学校協働活動の在り方が課題となる。

２つ目の課題は、１つの校区に複数の地区をもつ学校があることである。先述したが、釜戸小学校には、大湫地区と釜戸地区の２つの地区に住む児童が通っている。さらに、瑞浪北中学校には土岐地区、明世地区、日吉地区、釜戸地区、大湫地区と５つの地区から生徒が通学している。また、瑞浪南中学校も陶地区、稲津地区に住む生徒が通っている。このように、市内の小学校、中学校には複数の地区から児童生徒が通学しており、地域学校協働本部（活動／推進員）の在り方が２つ目の課題である。

以上、２つの課題を含め、令和６年度に市内全小中学校で学校運営協議会及び地域学校協働活動をスタートさせるために、これらの課題についてモデル校の２校の実践及び他地区等での実践及び研修等から学んだことをもとに調査研究し、以下瑞浪市モデルとして提言をまとめた。

IV 提言

(1) 市内先進校の実践より

市内先進校2校（釜戸小学校・稲津小学校）の実践を検証し、以下の8つの視点で成果と課題を明らかにした。

【視点】

- | | |
|--------------------|---------------|
| ① 学校運営協議会立ち上げまでの動き | ⑤ 願う子供の姿 |
| ② 組織図 | ⑥ 地域学校協働活動推進員 |
| ③ 組織及び会議回数 | ⑦ 年間計画 |
| ④ 構成員 | ⑧ 地域への周知 |

成果（○）、課題（△）、今後に向けて（□）

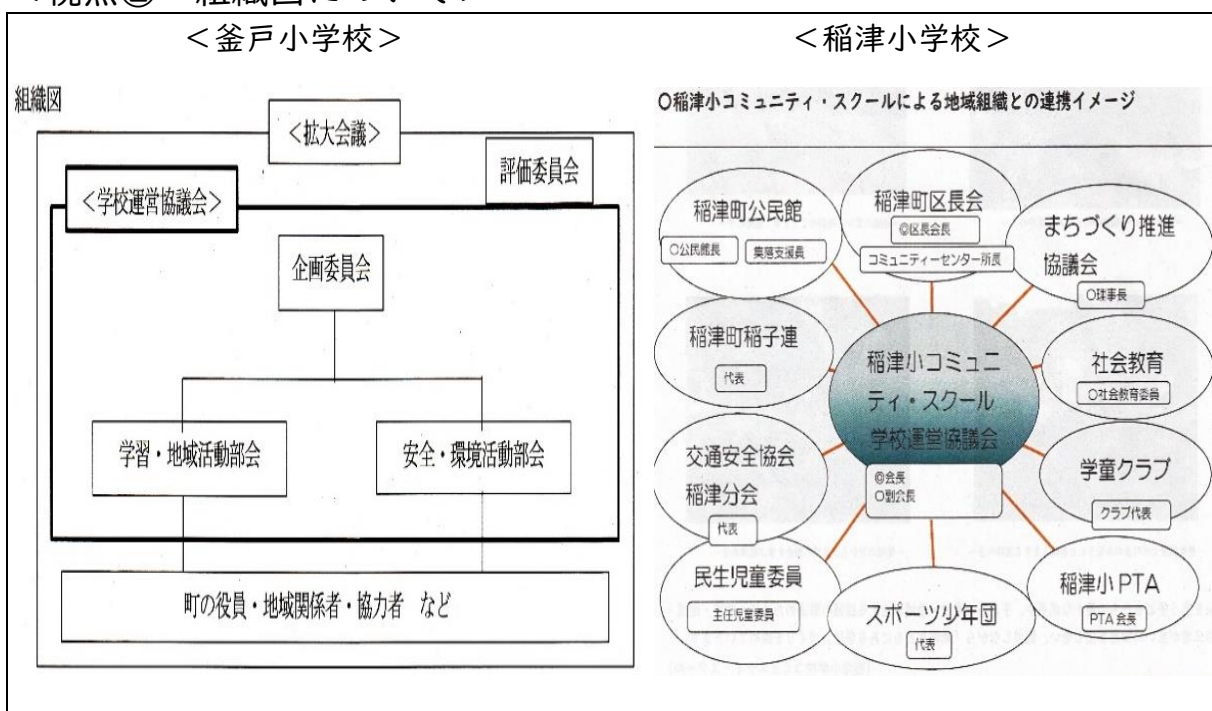
<視点① 学校運営協議会立ち上げまでの動きについて>

	内 容
釜戸小学校	<p>令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月教育長より学校運営協議会（以下、「協議会」という。）先進校の要請を受けた。 ・同月地域団体代表へ協議会についての説明会を開く。「学校運営協議会とは」「地域学校協働本部（以下、「本部」という。）とは」について文科省の資料等をもとに概略を説明した。 ・11月大湫町・釜戸町それぞれに出向き各種団体代表へ協議会・本部について説明した。 ・12月保護者へ協議会について説明する文書を発出した。 ・1月市主催研修会に地域代表7名（PTA会長、公民館長、集落支援員×2、区長会長×2、校長）が参加した。 <p>テーマ：『地域に開かれた学校』から『地域とともにある学校』へ ～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の未来～。</p> <p>講師：相田康弘 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月第1回企画会を開催し、協議会発足に向けた話し合いを行った。 ・3月第1回学校運営協議会準備会を開催し本格スタートに向け話し合った。
	<p>令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月情報交流会を行った。コロナ感染症により学校が休校となり活動ができないこと、また新たなメンバーが加わったこともあり、これまでの経過や今後の予定等を打ち合わせた。 ・6月第1回学校運営協議会を開催した。休校によりこの時期の開催となった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月第1回企画会を開催した。 ・ 7月～3月部会ごとに活動を行った(学習7回・安全環境6回)。 ☆学習・地域活動部会…計画づくり・人材バンク作成・地域講師の授業参観・釜戸大湫文化祭へ参加・地域講師と授業打合せ・振り返り 計7回 ☆安全・環境活動部会…計画づくり・庭木剪定作業・運動場草取り・安全サポーター・振り返り 計6回 ・ 11月第2回企画会を開催し、中間まとめと自己評価について話し合った。 ・ 1月評価委員会を開催し、自己評価の分析および次年度に向けて改善策を検討した。 ・ 1月第2回学校運営協議会を開催し、自己評価結果をもとに、今年度の成果と課題、次年度に向けて意見交流を行った。 ・ 2月第3回企画会を開催し、活動報告書を検証し市教委等へ配布した。
稲津小学校	<p>令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月第1回地区団体代表者と企画会を開催し、協議会スタートに向けて構成員等について検討した。 ・ 8月第1回評議員会（学校運営協議会準備委員会）を開催し、協議会や本部について共通理解した。 ・ 10月第2回企画会を開催し、組織体制や活動計画等について検討した。 ・ 11月第3回企画会を開催し、「願う姿」「活動計画」「地域への周知」等について意見交流を行った。 ・ 1月第4回企画会を開催し、願う姿の確認や地域への周知について意見交流を行い、おおむね合意ができた。 ・ 1月第2回評議員会を開催し、今年度の振り返りと次年度からの協議会のスタートに向けて確認を行った。 ・ 2月「学校運営協議会だより」（学校作成）を全戸へ配布した。内容は、願う姿・組織・活動計画等である。 ・ 2月各地域団体（区長会・まちづくり等）へ説明会を開き、協議会と本部の趣旨等について説明し理解を得る。 ・ 3月各地域団体へ役員選出等を依頼するとともに、改めて理解と協力をお願いした。 ・ 3月学校報にて保護者へ令和3年度から協議会・本部がスタートする旨を周知した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○地区への説明会を何度も開催し、地域住民に理解・協力してもらえるようにていねいに説明した。 ○地域と学校の連携・協働活動に対する「研修会」に地域の主要関係団体代表者が参加し、今後の活動推進に向けて理解を深めた。 ○協議会や本部をただ設置・実施するだけでなく、評価委員会を位置付け改善

と 課 題	<p>を図るなど、PDCAサイクルで進めようとしている。</p> <p>○地域が主体となってすべてを企画立案していくことについて困難が見られたため、まずは学校側が主体となって協議会・本部の形態を提案している。これにより、地域としても何をすればよいか分かり進めやすかった。</p> <p>○両校とも、会を中心になって進めていく人物（協議会会長・副会長等）の選任を行っている。このことがスムーズに立ち上げるために重要である。</p> <p>○1年以上熟議を重ねて進めているためスムーズに立ち上げることができた。</p> <p>□今後活動が動き出したら、徐々に地域が主体となって地域としてできることを学校へも提案していきたい。</p>
-------------	--

<視点② 組織図について>



成 果 と 課 題	<p>○両校とも組織図がシンプルで分かりやすい。</p> <p>○学校運営協議会の他に地域の関係団体を巻き込んだ拡大会議が位置付いており地域全体で進めていくという願いと合致している。</p> <p>○学校運営協議会の中に両校とも部会（2～3部会）が位置付いており、中心となって活動する組織が明確になっている。</p> <p>○学校運営協議会の中に企画委員会が位置付いており、協議会の推進体制が明確になっている。</p> <p>○学校運営協議会とは別の第三者委員会が評価委員会として位置付いており、客観的な立場で評価をすることができる。</p> <p>△それぞれの団体の関連がわかる関連図（右）と、推進していく組織がわかる組織図（左）の両方があるとよい。</p>
-----------------------	--

<視点③ 組織及び会議回数について>

	内 容
釜戸小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会<20名>(2回)5月・1月 ・企画委員会<7名>(3回)5月・10月・2月 ・学習・地域活動部会<8名>(部会ごとに適宜開催) ・安全・環境部会<7名>(部会ごとに適宜開催) ・評価委員会<9名>(1回)1月 ・拡大会議<40~50名程度>(1回)3月
稲津小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会<15名>(2回)4月・2月 ・全体会(教職員全員参加)<24名>(1回)5月 ・学習支援委員会<9名>(適宜開催) ・安全環境委員会<10名>(同上) ・地域交流委員会<9名>(同上)
成果と課題	<p>○学校運営協議会の中に実働部隊として学校の要望に応じて、「学習支援部会」「安全環境部会」など2~3部会体制をとっており、誰が何を行うのかが明確になっている。</p> <p>○評価委員会が位置付いているため、PDCAサイクルを生かして活動をよりよいものにしていくことができる。</p> <p>○拡大会議や全体会が位置付いており、子供にかかわる多くの地域住民と全職員が顔合わせをすることができる。地域と学校が顔見知りになることで協働活動が推進しやすくなる。</p>

<視点④ 構成員について>

	内 容
釜戸小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・会長(釜戸公民館長)・副会長(大湫公民館長) ・企画委員会(会長・副会長・部会長<釜戸まちづくり会長・大湫区長会長>・市教委・学校) ・評価委員会(会長・釜戸区長会長・大湫コミュニティ推進協議会長・釜戸民生児童委員・児童委協議会長・社会教育委員・市教委・学校) ・学習・地域活動部会(部会長・集落支援員<釜戸地区・大湫地区>・主任児童委員<釜戸地区・大湫地区>・学校) ・安全・環境活動部会(部会長・釜戸区長会代表・交通安全協会会長・PTA会長・学校) ・拡大委員会(市議・区長会・財産区・青少年育成推進員・民生児童委員・更生保護女性の会・釜子連・PTA常任員会・市教委・市民協働課・社会福祉協議会等)

稲津小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会（会長・副会長＜まちづくり理事長・社会教育委員・公民館長＞・コミュニティセンター所長・学校・市教委） ・学習支援委員会（社会教育委員・コミュニティセンター所長・集落支援員・学童クラブ代表・PTA役員・学校） ・安全環境委員会（区長会長・PTA会長・交通安全協会代表・主任児童委員・PTA役員・学校） ・地域交流委員会（公民館長・稲子連代表・スポーツ少年団代表・PTA役員・学校）
成果と課題	<p>○今ある組織を活用することで、地域の負担感を減らしている。</p> <p>○会長を中心に様々な地域団体が参加しており、地域全体で学校と連携しているという願いが現れている。</p> <p>○各部会等の構成員を担う宛て職が他地区の参考となる。</p> <p>○スポーツ少年団代表や福祉委員等、子供にかかわる役職の方が構成員に入っていて、いろいろな視点から子供を支援する体制ができている。</p> <p>△兼務している役員の負担感を配慮していくとよい。</p> <p>□推進役を担う人材の任期を3年以上とする等、継続性をねらっている。宛て職では交替が早く、継続性が困難である。</p>

<視点⑤ 願う子供の姿について>

	内 容
釜戸小	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの「人・自然・歴史・文化」の魅力に気付く子 ・「ありがとう」の気持ちを、言葉や行動で伝える子
稲津小	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと大好き ～地域に誇りをもち、自分から動ける子～
成果と課題	<p>○地域と学校とで「願う子供の姿」を熟議したことで、地域全体で願う姿を共有して推進することができる。</p> <p>○目指す子供の姿が具体的でわかりやすい。</p> <p>○願う姿をもとにすべての活動が計画されている。</p> <p>△もう少し具体的行動で示すと評価しやすいのではないか。</p> <p>□評価委員会で願う子供の姿を視点に皆で成長点を認めていけるとよい。</p>

<視点⑥ 地域学校協働活動推進員について>

	内 容
釜戸小	<ul style="list-style-type: none"> ・両地区の集落支援員が担っている（釜戸地区1名・大湫地区1名）。

稲津小	・公民館長が担っている。
成果と課題	<p>○釜戸小学校には地域学校協働活動推進員が各地域 1 人ずつ選任されておりそれぞれの地域との連携がしやすい。</p> <p>○複数の小学校区からなる瑞浪南中学校区・瑞浪北中学校区では、各小学校区より、推進員はじめ各部会、関係団体等の代表者が集まって協議会を組織するとよい。各小学校区協議会メンバーが全員中学校区のメンバーに入ると多人数となるため、各小学校区より数名ずつ集まるのがよい。</p> <p>□推進員がまだ十分に機能しきれていない。学校と地域の両方を知っている人が担うとよい。</p> <p>□地区に推進員は 1 名でよいか。学校側と地域側に必要ではないか。白川村のように多人数設置できるとよいのではないか。</p>

<視点⑦ 年間計画について>

	内 容
釜戸小・稲津小	<p>・協議会全体・各部会等すべての委員会について年間計画があり、地域住民も見通しをもって活動を進めることができる。</p> <p>・学習・地域活動部会の年間計画は学校の授業と関連付いていて連携が取れている。</p>
成果と課題	<p>○学校の行事をもとに位置付いており、その計画に沿っていろいろな活動が行われている。</p> <p>○年間の活動が 1 枚にまとまっており把握しやすい。</p> <p>□幼稚園、小学校、中学校、各団体、地域行事等の活動予定を一覧にすると、行事等の重複もなく、また、地域住民が学校行事や地域行事を把握できてよいのではないか。</p>

<視点⑧ 地域への周知について>

	内 容
釜戸小	<p>・地区の主な団体の代表へ説明会を行った。</p> <p>・学校報で保護者や地域へコミュニティ・スクールについて理解を図った。</p> <p>・学校運営協議会のモデル校として活動報告書をまとめた。他校へのガイドラインを示すことができた。</p>
稲津小	<p>・学校報で保護者や地域へコミュニティ・スクールについて理解を図った。</p> <p>・学校運営協議会だよりを全戸へ配布した。</p> <p>・各地域団体の代表へ説明会を開いた。</p>

成果と課題

- 地域への説明会等を何度も行ない丁寧に進めてきたことでスムーズにスタートできた。今後広報活動によって地域住民の一層の理解を図りたい。
- 学校報等で知らせたことがよい。今後定期的に発信していくと一層理解・協力を得やすい。
- 公民館便りやまちづくり等のホームページで地域からも学校との連携・協働活動が紹介されていることが素晴らしい。
- 行政からも全戸配布の通信でコミュニティ・スクールの取組事例が紹介されたことで、地域へも周知できたが、同時に学校・地域・行政の三者の連携についても発信できた。
- 地域や保護者へは周知ができたが、子供や教職員への周知も大切である。



【第3回社会教育委員会定例会での話合いの様子】

先進校の実践の検証より提言

- まずは「準備委員会」を立ち上げ学校運営協議会設置に向けて検討を始める。協議会の組織は、推進役の「企画委員会」の他、学校と協働し実働部隊となる「部会（委員会）」を2～3程度と、評価改善のための「評価委員会」を位置付けるとよい。
- その構成員は、区長会やまちづくり推進協議会等、子供とかかわりのある団体関係者（民生児童委員や交通安全協会等）がよい。さらに、拡大委員会（全体会）には、地域で子供とかかわりがあるとよい関係団体の代表者ができるだけ多く入るとよい。→地域全体で子供の教育にかかわっているという意識を醸成しやすい。
- 地域住民にも当事者意識をもって協働活動を進めてもらうために、説明会の他、研修会を位置付けるとよい。
- 推進役を担う人材は、活動の継続性が担保できるよう、任期は複数年が望ましい。
- 地域全体で「願う子供の姿」に向けて活動するために、地域と学校が顔を合わせ「地域でどんな子供を育てたいか」について熟議するとよい。
- 複数の小学校区からなる瑞浪南中学校・瑞浪北中学校の学校運営協議会の構成員は、各小学校区の各役職の代表者によって構成するとよい。（例：主任児童委員は土岐地区が代表、交通安全協会は日吉地区が代表等となり学校運営協議会構成員となる。また、代表者は他地区の同役職と連絡・調整を密に行う。）
- 活動計画は、幼稚園、小学校、中学校、各団体、地域行事等を一覧にまとめると、行事の重複が避けられ把握しやすい。
- 協働活動のスタート時は学校が主体となって活動する事例が多いが、地域が主体となった活動を徐々に増やしていくことで、地域の当事者意識の向上および教職員の働き方改革につながる。

Ⅳ 提言

(2) 地域と学校の連携・協働の在り方

～各地区の特性・実態に基づいた組織・活動等について～

- ① 瑞浪地区
- ② 土岐地区
- ③ 陶地区
- ④ 稲津地区
- ⑤ 明世学区
- ⑥ 日吉地区
- ⑦ 釜戸・大湫地区

瑞浪地区における地域と学校の連携・協働の推進について

1 瑞浪地区におけるこれまでの地域と学校の連携状況について

小中各1校からなる当地区においては、小中それぞれに従来からの学校評議員制度による学校運営であり、地域と学校の連携状況は、各校において、子供たちが地域に出向き学習したり、学校において地域人材による学習をしたりといった、学校が主体となって地域を活用する形態のものが中心となっている。

2 瑞浪小・中学校の学校運営協議会について

当校区においては、小中合同での学校運営協議会制度を目指している。令和3年度10月に初の小中合同学校評議員会を実施した。令和4年度中に合同の学校評議員会により、学校運営協議会設置企画（役員・組織、めざす子供像等）を検討・決定する。令和5年度に仮の協議会を発足・試行し、6年度に本格始動の見通しである。

組織は、小中を跨いで、より実質的な活動に繋がる人材や組織から登用する。具体的な活動については、周辺地域同様、これまで行われてきた活動を基本とし、その趣旨やねらいをめざす子供像に照らし明確にしつつ、協働活動として深化・拡充していく。これまで、学校依頼・主体の活動が主であったので、地域主体の取組を導入できるよう検討していく。（※4その他）

3 瑞浪地区での地域学校協働本部及び活動について

(1) 地域学校協働本部について

当校区のこれまでの地域・学校の連携は、地域が主体となって学校・子供に関わる活動を多く実施している周辺地域とは異なる。これには、学校規模や地域性、地区の公民館や集落支援員の存在などが影響していると思われる。今後、地域の主体的な活動を展開していくには、既存のまちづくり推進協議会の大きな枠組みの中で、小中学生（学校連携）関連の取組充実に絞って推進していく「地域学校協働活動推進員」の役割を担う人材が、地域・行政側の中心となる。

(2) 地域学校協働本部の活動拠点について

校区の様子や子供たちを見守り、学校と連携・協働を進めるために、上記推進員が所属する公民館等、校区内に活動拠点があることが望ましいが、当面、常設で事務を行うような状況にはならないと考えられる。とりあえず、学校か校区の公共施設に所在があればよい。

4 その他

地域主体の取組 【例（私見）】

今後、中学の部活加入の自由化が検討されている。これに伴い、子供の運動離れ、体力の低下の加速化が心配される。また、中学生の余暇の過ごし方における生徒指導面での心配もある。これを機に、これからの部活運営・存続の在り方等について行政・地域でも検討していく必要がある。

⇒ スポーツ少年団と運動部活クラブの連携・統合
総合型地域スポーツクラブ

土岐地区における地域と学校の連携・協働の推進について

1 土岐地区におけるこれまでの地域と学校の連携状況について

まちづくりの活動では、土岐小学校の運動場や体育館を会場にして、土岐地区の夏祭りや防災運動会などを実施してきた。また、草刈り作業や花の苗植え作業など、環境整備作業は毎年実施してきている。さらには、交通安全指導を兼ねた見守り活動（交通安全協会）や青色回転灯による巡回パトロール（青少年育成）なども実施されてきた。地域の人材活用では、日本昔話（紙芝居）を英語と日本語による読み聞かせや郷土の歴史・文化に関する学習などで活用されてきた。

2 土岐小学校の学校運営協議会について

令和2年11月に学校運営協議会準備会が開催された。評議員メンバーを中心に令和3年度に学校運営協議会準備会を発足させた。令和3年7月と10月に評議員会と準備委員会を開催。10月の準備委員会には青少年育成関係者1名、学校教育委員会1名が加わった。学校運営協議会の基本構想、各支援部会の検討、メンバーの検討など話し合った。令和4年2月に開催予定の準備委員会で最終決定の予定。令和4年度より正式にコミュニティ・スクールとしてスタートする予定である。

3 土岐地区での地域学校協働本部及び活動について

(1) 地域学校協働本部について

本活動は、地域の人々とのふれあいを大切に、子供たちの**学びの質の向上**を図り、「**生きる力**」を育てることにあると考える。学校がこれまで地域とどんなことでどのように連携・協働してきたかを把握し学校と地域で共有する。（教育課程への詳細な位置づけ）

地域学校協働本部は、すべてを統括する事務局員と本部長のもとに、実働部隊としての「まちづくり」の会長、副会長、4部会（情報発信、あんしん安全、ふれあい、青少年育成）の部会長、「区長会」や「学校」関係者を中心に15名程度で構成する。部会はシンプルに「学習支援部会」と「環境・安全支援部会」の2部会としたい。「学習支援部会」では、総合的な学習の時間を中心に人材を提供できるように、学校と緊密な連携のもとで実施する。「環境・安全支援部会」では、草刈り、剪定、花の苗植え、あいさつ運動を兼ねた通学路での見守りや安全点検などを行う。また、まちづくりの活動でもある「防災運動会」を防災教育の一環として学校と協働して実施する。広報については、まちづくり広報誌に（学校報と連携・協働する形で）「コミュニティ・スクールコーナー」（仮称）を設ける（**負担軽減・学校と地域の足並み・経費節減・相乗効果をねらった広報活動**）。また、瑞浪北中校区の他の4地区とも連携を取りながら活動を進めていくことも大切である。

(2) 地域学校協働本部の活動拠点について

活動拠点が学校に近いことはいいが、学校や関係諸機関・団体・個人との連絡の頻度や時間、どれだけの人を要するのかも考慮したい。また、活動の拠点に行けば事務局（複数の担当者）が常駐していて、報告・連絡・相談ができる。気楽に集える場の環境整備について、行政当局の強力な支援が期待される。まちづくりが活動の中核をなすことから考えると西分庁舎の拡充を真剣に考えたい。

陶地区における地域と学校の連携・協働の推進について

1. 陶地区におけるこれまでの地域と学校の連携状況について

陶町では、子供会、PTA、まちづくり推進協議会、連合区並びに各区会、公民館等が連携して、児童生徒の健全育成に積極的に取り組んで来ている。課外・課内を問わず活動をしている。子供会は役員がPTAの会議に参加し、PTAや学校との連携を取り、まちづくり推進協議会、連合区並びに各区会、公民館等は各種団体の代表者と学校が直接コンタクトをとれる環境にあり、公民館長・集落支援員・コミュニティセンター所長をはじめとする職員の皆さんが、パイプ役の役割を果たしながら調整をしている。

2. 陶小学校の学校運営協議会について

令和2年度より、陶小学校学校評議員会にて評議員会のメンバーで学校運営協議会準備委員会を運営することにして学校運営協議会準備委員会を評議員会にて開催していくことで活動を開始。陶小学校には、既に地域との連携の歴史と良好な関係があるとの認識で一致し、現状の事業と連携関係を大切にしながら進めることにして取組みを始めた。テーマとして「ふるさとを愛し 自分も仲間も陶町も大好きな すえっ子」を仮テーマとして取組むこととした。

令和2年度中に組織表と部会の素案を作り、3年度にかけて検討をして、組織として会長と複数名の副会長を設置し、公民館長をはじめとする地域からの代表委員10名の構成、学校関係者3名の構成、市教委2名のオブザーバーの設置などを検討し、部会については(1)学習・地域活動部会(2)安全・環境部会の2部会を設置する事を検討。会議として、企画会議、運営協議会、全体会、評価委員会、各部会を設置運営することを検討。

今後について、現状行われている事業や過去に行われていた事業の見直しや分析を行い各部会の活動内容の検討と組織構成の検討を行い、各部会の願いを検討する。それに基づき仮テーマを再検討することを予定している。

3. 陶地区での地域学校協働本部及び活動について

(1) 地域学校協働本部について

現状で、学校運営協議会の活動を推進し、地域住民に陶小学校コミュニティ・スクールの理解を深めて協力者の輪を広げることに取り組んでいくことを大切にして、新たに地域学校協働本部を設置する検討は、学校運営協議会の活動しながら、設置の必要性を強く感じるようになった時に検討すればよいとの認識でいる。また、瑞浪南中学校との連携では、校区内の稲津地区との連絡調整を十分に図りながら進めていくことが望まれる。

(2) 地域学校協働本部の活動拠点について

現状で、活動の拠点としては、幸いにして陶町には陶コミュニティセンターに陶公民館があり、この公民館を活動拠点とすることができることと、より良い活動のために陶小学校にもその拠点を設置し学校現場との緊密な関係を構築し、より学校に即した活動の推進を図れるようする事がよいのではないかと考え、陶公民館、陶小学校の両方に活動拠点を設置する事を検討している。

稲津地区における地域と学校の連携・協働の推進について

1 稲津地区におけるこれまでの地域と学校の連携状況について

稲津町は、小里地区と萩原地区の2つの集落が一つにまとまって成り立っている町で、屏風山を東に仰ぎ、中央を小里川が流れ、自然と調和した田園風景が広がる盆地である。

地域と学校の結びつきが強く、稲津町の特色を生かした、小里川学習、米作り、小里城跡登山、寺や神社調べ、老人福祉施設交流など地域を知る学習の他、更生保護女性の会による花壇の苗植えとしおりづくり、交通安全協会による交通安全教室、稲子連による夏のキャンプなど、学校と地域住民がともに活動する機会も伝統的に位置づいている。

2 稲津小学校の学校運営協議会について

稲津町では、令和元年度に今まで取り組んできた学校と地域とのつながりがある活動を振り返り、「活動の整理」と「人材の整理」を進めた。

令和2年度には学校評議員会をもとに学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、会の発足に向け組織の編成と具体的な動きを計画していった。企画委員として、区長会長、まちづくり推進協議会理事長、公民館長、コミュニティセンター所長、社会教育委員、校長の6名が具体的な動きを協議し、そこに学校に関わる地域代表7名を加え、学校運営協議会の代表委員として任命することにした。

活動を推進する委員会としては、学習支援委員会（魅力ある地域学習）、安全環境委員会（地域で子供を見守る安全環境）、地域交流委員会（子供を育てる地域活動）の3委員会制とし、活動をそれぞれ割り振った。

令和3年度4月より正式に学校運営協議会をスタートし、地域、家庭、子供に周知を図るとともに、コロナ禍の中、できる範囲内で少しずつ地域と学校と連携した活動を実施している。初年度から、目新しいものを展開していくのではなく、既存の活動を踏襲しながら、時間をかけて活動を整理し、持続可能な仕組みを作っていくことを目指している。

3 稲津地区での地域学校協働本部及び活動について

(1) 地域学校協働本部について

今までの地域と学校の活動の様子から、学校運営協議会を母体として、地域学校協働本部を組織・設置していくことが、負担も少なく合理的であると考えられる。

また、瑞浪南中学校との地域学校協働活動では、校区内の陶地区の地域学校協働活動推進員等と連絡を取りながら同一歩調で企画・運営を進めていくことが望まれる。

(2) 地域学校協働本部の活動拠点について

活動拠点については、学校と連携を密にすること、子供たちや学校の日常を知ること考えると、学校の空き教室を利用し、そこにコーディネーターを常駐させ、活動を推進していく拠点の場とすることが望ましい。

明世学区における地域と学校の連携・協働の推進について

1 明世学区におけるこれまでの地域と学校の連携状況について

明世学区では、平成20年度にまちづくり推進協議会（以下「まちづくり」という。）がスタートした。まちづくりは6つの委員会（あきよウォッチング委員会、防犯・防災委員会、広報活動委員会、青少年育成委員会、スポーツ委員会、福祉委員会）等で組織され事業を展開している。これまでは戸狩在住の奥村了氏が5年生児童に対して総合的な学習の時間「環境教育」の中で、ホタル飼育の講話を行ったり、狭間川のホタル放流会で命を守ることの尊さを教えたりした。この「ホタル育成事業」は、令和3年度よりまちづくりの青少年育成委員会と連携して取り組み始めた。また、更生保護女性の会による「しおりづくり」や交通安全協会による「交通安全教室」など、これまでも学校と地域住民と一緒に活動する機会があった。

2 明世小学校の学校運営協議会について

令和4年度4月より学校運営協議会がスタートする。それに向けて、令和3年度に準備委員会を立ち上げた。メンバーはまちづくり会長、山野内区長、主任児童委員、集落支援員、PTA会長等ら10～15名程度である。部会として、学習・地域活動部会、安全・環境活動部会の2部会制をとる。年間活動としては、学習・地域活動部会では「ホタル飼育」「地域歴史学習」「読み聞かせ」等を、安全・環境活動部会では「交通安全教室」「登下校の見守り」「草刈り・剪定」等を実施する。

3 明世学区での地域学校協働本部及び活動について

(1) 地域学校協働本部について

明世学区の地域学校協働本部は、多くの構成員が単年で交替するまちづくりと比べ、比較的長期間同じ構成員で構成される協議会の2部会がよいと考える。2部会はそれぞれ地域住民が主体となって子供たちのよりよい成長を願い活動している。例えば、「学習・地域活動部会」では子供たちと「ホタル飼育」の体験学習を行う。また、年間を通しての「読み聞かせ」や低学年での「昔遊び」「町探検」等の学習を行っている。「安全・環境活動部会」では、登下校時に通学路に立ち「あいさつ運動」をしながら児童の安全・安心を見守っている。「交通安全教室」や「命を守る訓練」にも参加している。さらに、校地内の草刈り・剪定活動や、ペンキ塗り等を行っている。今後より一層学区住民全体で子供を育てる意識をもてるように地域住民に広く周知し理解・協力をお願いすることも大切である。

(2) 地域学校協働本部の活動拠点について

明世学区には学区独自の公民館がないため、明世小学校（空き教室又は図書室）か市民体育館健康相談室を拠点とするのがよいと考える。地域住民と学校の連携・協働活動を充実させるには、地域学校協働活動推進員（以下「推進員」という。）等と教職員が顔見知りになり気軽にやり取りができる関係づくりが重要である。そのために学校に近いところに活動拠点を置くことで子供たちの様子を見守りながら連携・協働したり、新たな活動を創造したりすることができる。瑞浪北中学校との協働活動では、校区の他の3小学校区4地区（土岐地区・日吉地区・釜戸地区・大湫地区）の推進員等と連携をとりながら実施することが求められる。

日吉地区における地域と学校の連携・協働の推進について

1 日吉地区におけるこれまでの地域と学校の連携活動について

日吉地区では、まちづくり推進協議会、区長会、PTA、子供会、公民館等が連携し、児童生徒の健全育成のための支援活動を行っている。特に、まちづくり推進協議会は6部会（総務部会、教育文化部会、自然環境部会、地域振興部会、ふれあい部会、日吉公民館）等で組織し事業を展開している。これまで児童生徒を対象とした活動としては日吉小学校出前講座・里山体験学習、自然観察会、寿大学とのマレット交流会、にじ色ファーム、日吉町文化祭、天神窯春まつり、夏祭り、公民館で遊ぼう教室、町民スキー教室、青色回転灯パトロール等の活動を実施している。

2 日吉小学校の学校運営協議会について

令和4年度より学校運営協議会をスタートする。それに向けて令和3年度準備委員会を立ち上げ、「日吉小コミュニティ・スクールの構え」「目指す子供の姿」等を協議した。学校運営協議会のメンバーは、公民館長、まちづくり会長、区長会長、社会教育委員など14名よりなる。部会として、「学習支援部会」、「環境・安全部会」、「地域活動部会」の3部会制をとる。

目指す子供の姿を、「地域を担う子に育てる」（日吉を知り、日吉から学び、日吉のことを考え、行動できる子を育てる）とした。

コミュニティ・スクール発足に向け、児童、保護者、教職員に対してアンケートを実施し、「ふるさと日吉のよさ」「子供の健全な成長のために、地域に期待すること」「学校・家庭・地域が連携を深めて取り組んでいくこと」等について調査した。今後、アンケート結果を参考にして3部会の年間活動計画を策定していく。

3 日吉地区での地域学校協働本部及び活動について

(1) 地域学校協働本部について

日吉地区のコミュニティ・スクール（学校運営協議会）発足の基本的な考え方は、「子供に軸足を置き、これまでの活動を見直し工夫改善を加えていく。町民が負担感を感じるような組織、運営にしない。活動に参加して良かったと思える活動にする。」ことを目指しているため、地域学校協働本部は特別に立ち上げず、学校運営協議会を母体として一体的に活動していく方が望ましいと考える。

これまで、まちづくりや各団体がばらばらに子供たちを支援してきた活動は、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の発足により、学校運営協議会の3部会「学習支援部会、環境・安全部会、地域活動部会」が横の連携を取りながら、統一的に総合的に子供たちを支援できるようになると考えられる。また、学校運営協議会と地域学校協働本部を一体的に活動した方が、協議した内容を活動の協力者にダイレクトに伝えることができるというメリットを生かせやすい。

さらに、瑞浪北中校区の4地区（土岐地区・明世地区・釜戸地区・大湫地区）とも連携をとりながら活動を進めていくことも大切である。

(2) 学校運営協議会（地域学校協働本部）の活動拠点について

学校運営協議会の活動拠点は、日吉小学校及び日吉町まちづくり推進協議会の事務局を担う日吉公民館に置くとよいと考える。

釜戸・大湫地区における地域と学校の連携・協働の推進について

1 釜戸地区におけるこれまでの地域と学校の連携状況について

学校からは、「夏祭り」や「文化祭」などの地域行事で「ソーラン」「合唱」「太鼓演奏」などの発表を行い、地域を盛り上げることに繋がっていた。また、地域からは公民館や自然ふれあい館が中心となり太鼓指導や自然体験などの「ふるさと学習」への協力ができていた。さらに各教科や総合的な学習などでは地域の方が講師を務め、学習の支援にあたってきた。こうしたことが、市のコミュニティ・スクールの先進校としての指定を受けた理由の一つとも言える。

2 釜戸小学校の学校運営協議会について

釜戸小学校は、市の指定を受け令和元年度から、コミュニティ・スクールの準備委員会を立ち上げ、準備期間を経て、令和3年度よりコミュニティ・スクールとして発足した。組織は企画委員会の下に「学習・地域活動部会」と「安全・環境部会」を作り、さらに、学校運営協議会の評価・改善のための「評価委員会」を位置付けたことに特徴がある。

社会教育委員として出席した会議では次のことを提言してきた。

- ① 意識化…「地域が一体となり、学校と連携・協力して子供を核としながら地域づくりをめざすという意識」を共有することが大切である。
- ② 組織化…今までは個々の団体が学校を支援してきたが、これからは共有する目標に向かって地域が一体となって支援していくように組織化する。
- ③ 情報発信…コミュニティ・スクールについて、どういう学校なのか、何を目指すのかを地域に情報発信することが大切である。

3 釜戸地区での地域学校協働活動本部及び活動について

(1) 地域学校協働活動本部について

釜戸地区において地域学校協働本部は位置づいていない。しかし、学校運営協議会の他に地域の関係団体を巻き込んだ拡大会議が位置づいており、これが地域学校協働本部の機能を果たしていると考えられる。また、学校運営協議会の中に「学習・地域活動部会」と「安全・環境部会」が位置づいている。これにより、学校運営協議会で協議された内容が協力者にダイレクトに伝わりやすいというメリットがある。しかし、学校が地域の要望に応え協力していくという面において機能しにくいというデメリットもある。

(2) 協働活動について

学習・地域活動部会では、各学年の「ふるさと学習」を中心に協働活動を進めている。特に、3年生では地域の太鼓集団「青龍」が太鼓の指導をしており、文化祭などで発表している。また、1,2年生は瑞浪市自然ふれあい館と連携し木育を進めている。「安全・環境部会」では年2回運動場の草取りボランティア活動を行っている。また登下校の見守り活動に多くのボランティアの方が参加している。コロナ禍の中、計画どおりにいかない場合もあったが実践を重ねることで地域の理解も深まっている。

また、瑞浪北中学校との協働活動では、校区の他の3地区（土岐地区・明世地区・日吉地区）とも連携をとりながら実施することが大切である。

VI おわりに

令和2年度と令和3年度の2年間にわたり「コミュニティ・スクール化とともに進める地域と学校の連携・協働の在り方」をテーマとして、勉強会や先進校の実践事例の成果と課題などをもとにいろいろ討議を重ねてまいりました。

しかしながらこの2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により、いろいろ制約があり当初の活動計画通り出来なかったこともありました。地域の宝である子供をどうやって育てていくべきかとの思いで2年間の活動を行い、この「提言書」をまとめ上げることが出来ました。

これもひとえに、多くの地域の皆様方をはじめ、関係各位からあたたかいご支援とご協力を賜りましたお陰と厚くお礼を申し上げます。

末尾になりましたが、社会教育委員会事務局である社会教育課の皆様には、格別にお世話になりましたこと重ねて厚くお礼を申し上げます。

令和4年2月吉日

令和2年度・3年度 瑞浪市社会教育委員一同

有賀 秀雄	小栗 正敏	安藤 隆宏	酒井 周文	安藤 徳善
岩島留美子	小木曾恵美	伊藤 孝一	山田 秀樹	浅沼 克郎
牛島 正治 (令和2年度)		田口 宏二 (令和3年度)		